

わが市わが町 山北町

山北町は神奈川県西部に位置し、緑深い丹沢の山々に抱かれた、さわやかな風の吹き抜ける町です。面積の約90%は丹沢大山国定公園と県立自然公園などの山岳地帯で、自然を求め多くの観光客が訪れます。

雄大な山々、美しい湖、清らかな流れ、そして富士山の景観・・・首都圏から至近にありながら豊かな自然が残る山北町には、由緒ある温泉や郷土の歴史文化など見所も沢山あります。

<山北町の木材活用>

山北町は面積の約90%が森林という豊富な資源に恵まれた地域です。町産の木材は他県のいわゆる「ブランド材」と比べても見劣りしない高品質のものもあり、町の施設にも活用しています。

山北駅前前の「ふるさと交流センター」では町産材を多く使用しており、特に中心の通し柱は、玄倉地域の90年生のヒノキ材や箒沢地域の70年生のヒノキ材を使った、施設のシンボリック的存在です。



平成26年度には、廃校となった共和地域の小学校が内装木質化により新たな交流施設、「共和のもりセンター」として生まれ変わりました。

た。

現在は地域における交流の拠点として利用されており、町産材や県産材を多く活用した温かみのある空間となっています。



<D52奇跡の復活！>

東海道本線の箱根越えのルートとして開業した御殿場線。その中でも山北駅は、御殿場駅に向かうための補助機関車の連結操車駅であり、山北町は「鉄道の町」として大いに栄えました。

蒸気機関車D52は、「デゴニ」の愛称でも知られています。1943年に投入開始され、約3年間で285両が製造されましたが、現存するのは全国で7両だけです。D52の「D」はアルファベットの4番目であることから、車輪が4つずつあることを表します。車両の重さは約100tもあり（電車約4台分、横綱稀勢の里約571人分）、日本の機関車の中では最高の出力を持つ大型の蒸気機関車と言われています。

山北鉄道公園に保存されているのは、その貴重な1両である「D5270」です。険しい富士山麓を走ることが可能な重機関車として1944年に製造され、山陽本線や東海道



本線などで活躍し、1951年に御殿場線に転用された後、1968年の電化にともない引退しました。

2016年に開催された「D52奇跡の復活祭」において、「D5270」は48年ぶりに復活を果たしました。石炭を燃やすことによって発生する蒸気を使うのではなく、大型コンプレッサーを2基搭載し、そこから送り込まれる圧縮空気を動力源として自力走行が可能となったのです。復活祭当日は全国唯一の「動くD52」を観るために、大勢の方が詰めかけました。



<「でごにい」をよろしくお願ひします♪>

性別:男の子(D5270の妖精)

D5270の車両の形をしたおしゃれな帽子をかぶっています。耳にはD5270の車輪、ベストの左胸には山北町の特産品であるみかんをモチーフにしたマークがついています。山北中学校美術部の生徒に山北町への思いを込めてデザインをしていただきました。



(山北町 農林課)

